

ポケットジャーナル



★夜のフラワールード 音キチ繁昌

ブルブル。パリパリ。夜の九時ともなると市役所前からフラワールード一帯は音キチ族の天下になる。この界限はオフィス街で夜になると人通りといえはアベックか外人船員ぐらいなもの。おまけに広い道路で、信号もないとくれば絶好のサーキット!?になる。彼ら現代っ子たちはオートバイ、ホンダN360、サニークーペなんかをひと晩中とばしちやってジツにカッコ



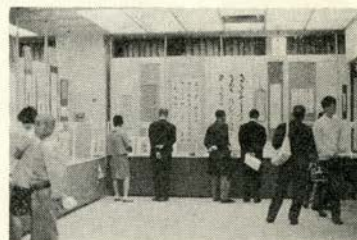
いい。

しかし、これら無邪気に遊ぶカッコいい若者達も、一般ドライバーにとって危険千万、愛を語るアベックや附近の住人にとっては迷惑なことこの上ない。爆音高く夜のフラワールードを疾走する音キチ族よ。カッこよさの陰には迷惑があることを忘れないでほしい。

★明治は去らず

幕末から明治にかけて、激動をつづいた極東の一孤岛、日本がよいよ世界に活躍した先人たちの遺墨展、「明治維新百人遺墨展」と兵庫県にゆかりの深い人や功労のあった先覚者達を主題にした「郷土百人の先覚者展」が生田神社と読売新聞社の主催で9月25、26日の両日県民会館二階展示場で催された。

会場はおもしろいなかにも熱っぽい雰囲気があったよ、二日間だけの展示だ



つたが、多数来館し、盛況を博した。

「明治維新百人遺墨展」は孝明天皇、明治天皇をはじめ、今日にも名をときめかす坂本竜馬、高杉晋作、勝海舟、吉田松陰、西郷隆盛、近藤勇などの幕末の主役、伊藤博文、乃木希典、岡倉天心、徳富蘇峰、森鷗外、夏目漱石など明治の偉人、英雄を悉く網羅し、まさに圧巻といえる展示会であった。

★第七回「車座の集い」

10月26日から11月3日まで西宮の津高和一派伯宅で第七回「車座の集い」が開かれる。

対話のための作品展というタイトルで、みんなが車座になって話しましょうということから「車座の集い」の名がついたもの。

期間中は庭で展覧会を催し、そこでみんなが気楽に語りあうというわけだが、

誕生日 ありがとう 運動



第二回
「誕生日ありがとう運動賞」
の受賞者決まる

昨年、日本精薄者愛護協会の法人会を記念して設けられた「誕生日ありがとう運動賞」は、全国の精薄施設で永年仕事に従事されてこられた方々に贈呈してきましたが、今回の献金使途の内の全国的使途三十万円は、この第二回「誕生日ありがとう運動賞」に決まりました。日本精薄者愛護協会では五月以来全国の施設長に推薦を依頼していましたが、八月七日の表彰選考委員会で表彰受賞者を選考しました。氏名(府県名 施設名)は次のとおりです。

松岡せい(山形 最上) 米原さく(群馬 つつじが丘) 鹿川一郎(埼玉 蕨心寮) 大村よし(東京 大島藤倉) 恩曾治作(東京 甲の原) 大島キン(神奈川 ひばりが丘) 間島峰子(岐阜 みどり) 立花重信(石川 錦城) 高崎富治(滋賀 信楽) 田代雪(岡山 由加) 北島松子(広島 六万) 河野ツヤ(徳島 あさひ) 小林ふみ(福岡 ひまわり) 佐々木恵美子(福岡 若久緑) 山口昭子(熊本 肥後)

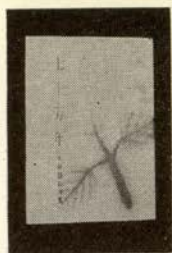
この第二回「誕生日ありがとう運動賞」は九月十九日から金沢で開かれ、第六回精薄者施設職員研究協議会に、受賞者を特別招待し表彰状とともに賞金を贈られました。

「お誕生日ありがとう運動」事務局
神戸市青谷区小野柄通二の五
青陽養護学校内 電話一五五九

とくに27日には広田善緒氏が道案内人となって、音楽を……29日はてんびんダルーの足立巻一氏が、詩を……31日は津高和一氏が、絵画を……の三つの集いがある。

出入り随意、会費無料、雨天決行のこの集いは毎回京阪神の文化人、ジャーナリスト、コレクターなど多数が参加して意見の交歓が行なわれる異色の集いである。

★和田信朗処女句集「七十万年」発売



「この文明を利用しながら他方ではネアンデルタール人のような単純な感覚と頭脳とをもつて、自分をふくめた自然の姿を眺めてきた」と作者「あとがき」にある通り、発達し過ぎたと言っても過言でない今日の物質文明の中で、人間の普遍性を問いつづけることは詩人に架せられた十字架であらうか。

死に方を思うや白く飼われる魚

氷河始まるわれを貫ぬく熱き背骨

鋭みなきって、静かに透明である。美しいというほ

かはない。和田氏(46)は奈良女子大理学部教授「俳句評論」「過」同人、東灘区本山町岡本梅ノ谷の一俳句評論社刊(六〇〇円)

★漫画を描くサラリーマン

9月10日〜15日 生田筋の安田画廊で一サラリーマンがユニークな漫画展を開き、好評を博した。

この青年は前川義人さんという二十五才の住友ゴムに勤務する一見平凡なサラリーマン。慶応大学在学中からマンガクラブに所属し、朝日新聞に紹介されたこともある。昨年卒業して郷里神戸の住友ゴムに入社した長田高校出身の神戸っ子。

「何げなく描きはじめた漫画だけれど、描いているうちに漫画のもつ魅力に惹かれ、やめられなくなりまし。表面上のギャグしか問題にされない漫画も、つくり出すうちに広い視野からものをみるようになり、人生修養にもなります。これからもよりよい作品を描いて、いずれ自費出版もする予定です。」



★神戸名物「蛸の壺」東京道玄坂店開店

明石の蛸をつかった玉子焼の味を江戸っ子にと、神戸名物たこ焼の「蛸の壺」が十月五日(八)東京都渋谷区上通三ノ六十(道玄坂上)TEL 03-2392-2121に開店した。

八千草薫さんが贈ったカトレアが美しく咲く店内は神戸の店と変らぬ民芸調のインテリアで、たちよった神戸っ子が「神戸の店を想いだして懐しい」と喜ぶことしきり。間口が狭いので神戸の店と同じく席の後が狭くて通りにくいことも、これまたケツコウというところらしい。蛸焼きには、灘の生一本菊正とキンビー。そしてマオタイ酒は北京時代をしのんで、主人木村憲吾氏が、わざわざ中国酒の準備をととのえたものの神戸新聞東京支社長の松井高男氏、日経新聞の岡本記者、岩島道枝さんなど東京の神戸っ子にじまって、民芸の清水雅夫さん達など顔ぶれも賑やかに開店の「蛸の壺」へつめかけた。

★姿を消した神戸タワー

大正13年に建てられて以来四十余年間、神戸名物として市民に親しまれてきた湊川公園の「神戸タワー」

★ドライバーメモ

川口陽之(自動車評論家)



獵犬はトランクに

十一月一日は狩猟解禁。ハンターブームで、近くの野山には、よい猟場がなくなった。どうしても遠出をしなければならぬ。犬を国道で送ると人間様より高くついてしまう。ハンターには、マイカーがないと具合が悪い。マイカーに犬を乗せて行く時、もっとも手取り早いのは、リアシートをはずして、乗せていけばよいのだが、このような乗せ方をしている、ハンドルを握っている運転手に、後ろからジャレついて操縦を誤まり、事故を起こすことがよくある。リアシートに犬を積むことは避けた方がよい。

ではどうすればよいのか？トランクに押し込むことである。トランクに押し込んで、フタをきっちりしてしまおうと、犬がかわいそうである。そのため、少しすき間をあけて、トランクのフタをすするようにしなければならぬ。このように出来る金具は市販されているが、この金具も改造したければならないので、簡単に取付けははずしたりすることはできない。それよりも、十センチぐらいの角材を三センチぐらいに切ったものを二本用意して、トランクのフタの端にかませ、犬をいれて、針金で、トランクキーの金具どうしをしっかりとつければそれでよい。これなら、安あがり、いつでも元どおりになる。



(高さ57尺)もとうとう姿を消した。浅草の12階建ての塔、大阪の通天閣の初を張って建てられた当初は人気を呼び、また戦前、戦中にかけては消防の望楼や空襲の監視所などにつかわれて活躍したが、戦後は老朽がはなはだしく、広告のスポンサーもつかず、まったく無用の長物になってしまった。その上最近では危険になってきたため、公園整備工事で撤去することになったもの。とりこわし作業は9月17日から約ふた

月つづいたが、道行く人も削られいく、老兵神戸タワリに名残りを惜しんだ。撤去後は地下に二層、広さ一万二千平方尺、収容台数三百台の駐車場がつくられ、附近一帯も整備されて新しい湊川公園として面目を一新することになっている。

★女子高校生にモテた服飾デザインコンテスト

福富学園が初めて設けた「高校生の服飾デザインコンテスト」は、九州・四国近畿・北陸など全国の高校から二、三三七点の応募があり現代っ娘のおしゃれ関心を示した。審査には、小磯良平、白川渥、赤根和生

新村正、大丸弘、今竹幸子近藤年子、山沢幸子各氏に福富芳美学長が加って熱心に討議された。

その結果特賞は原田加代子(岡山・新見高校)一等は弥十郎光子(兵庫・加古川西高)二等は田中美穂(姫路・琴丘高)日野真智子(兵庫・新宮高)三位には藤尾悦子(神戸・須磨女子高)尾上久美子(姫路・飾磨高)三宅公子(岡山・就実高)さん他32名が入賞した。

なお11月2日兵庫県民会館で入賞作品を福富学園で実物作成のうえ、ショー形式の発表会を行い、神戸をはじめ各地で開催される。



の出来栄と、中央では非常に高く評価されている。

これは、神戸青年会議所が、明日の神戸の繁栄を願って全力を傾けて製作したというだけあって装訂、内容ともに国際的なレベルを誇っている。

中央で高く評価されるのは当然の結果と思われる。とくにこうした未来論が直接政治に反映されつつあるということは、運輸行政の要を握る中曽根運輸大臣の見識の豊さを認めなければならぬだろう。

△YV

★関西新国際空港論



最近「関西地区に新国際空港をつくる場合は淡路島が有力であろう、また、着工は札幌国際空港よりも優先する」という見解が、手塚運輸省航空局長から発表された。

この関西新国際空港の

★コウベ・ムービー・コーナー 「雨あがりの天使」

最近の洋画は所謂成人映画が氾濫しているが、一方で女性映画も盛んに上映されるようになってきた。この「雨あがりの天使」も子供を中心に夫婦の葛藤と愛を描いた爽やかな映画である。

主演のカレン・ブランゲルノンは演劇の道を歩むかたわら、ファッション・モデルとして活躍した経験をもつ新人。映画出演としては五本目だが、もちろん、主演ははじめて。実生活では監督のサンタース夫人。彼女の娘として出演している少女レスリー・ベドスは実際にブランゲルノンの娘……というわけで、いわば、一家でつくった映画といえよう。



ブランゲルノンの相手役のフレデリック・ド・パスカルは、映画美術家として活躍していた人。そのマスクを買われて、五四年、ロベール・アンリコ監督の「美しき人生」に主演。その後数本の映画に出演したが、この映画でもその影の深い演技を披露している。

撮影監督はベテランのロジェ・デニユロ。音楽は最近めきめき売り出してきた新感覚派ジャック・ルーシエでパリの街と登場人物の心をよぎる光と影を美しく表現している。

〈東映配給〉
・毎月応募ハガキの中から抽選で十名様を試写会にご招待します

秋、秋、秋、 深い秋!!

松茸の香り高い
風雅な鍋物がさかんです
一度お運び下さいまし。

魚ちり、魚すき、てつちり、
鯛ちり、かにちり、ブタちり、
かしわの水煮き、牛肉しゃぶしゃぶ
すきやき、御会席料理一品料理

お申付け下さい。一、〇〇〇円お

◎赤坂名物、神戸肉のバター焼…一、三〇〇お

忘年会、幹事様へ!!

一〇人、二〇人、三〇人、四〇人、一〇〇人でも一部屋で出来ます



お料理一ばん
抽象画のあるルメ

神戸中山手四

② 7836, 7846,

リンゴ酢と蜂蜜で

腕をふるった

新しい「味」

このおいしさが

美容と健康にプラスします

神戸三宮生田ノ社ノ西

鮎の又半

電話・三の宮 ③ 0935

非惡童物語

足立巻一
え・津高和一

ぼくたちは「惡童」ではなかった。
しかし「善童」でもなかった。

14

草色のマント

前号まで 父は二六新報という新聞の同人であったが、
ぼくの生後四カ月で急死し、ために母と実家へ帰り、ぼく
は東京で漢学者の祖父、祖母に育てられた。ところが祖母
も小学一年生のときに死去し、祖父につれられて故郷長崎
に引きあげたが、その祖父も死んで孤児となり、親戚の寺
や染物屋で養われていた。それが急に神戸の母の実家へ引
き取られることになった。

ぼくが、その軍人につれられて三宮駅におりたのは、
大正十年の春であった。

そのころ、三宮駅はいまの元町駅のところであって、
赤レンガのガードがあり、それを穴門と呼んでいた。そ
れがいま、穴門筋という名で残っている。

駅を出ると、人力車がならんでいた。神戸だというの
に、どうして神戸駅でおりないのかふしぎであったが、
とにかく、ぼくは軍人のうしろについて、チンチクリン
のきものを着て小犬のように歩いた。ぼくは長崎の小学
校で一年生の終業式をすませたばかりであった。そのと
き、一年生の総代に指名されて、はじめてずっしりとし
た終業証書の束を校長先生からもらった。それはぼくひ
とりがもらうものと思つてよろこんだが、すぐに同級生
に一枚一枚配らねばならないことがわかつてがっかりし
たものだ。そして、数日後にその中尉の軍人がぼくをつ
れ出したのである。

だから、春休みになったばかりのはずであった。

それなのに、どういうわけか、その軍人は草いろのゆ
つたりしたマントを着ていた。軍人は短い口ヒゲを立て
ゆっくり胸を張って正面ばかり見すえて歩くごとにサー
ベルが長靴にチャカチャカ鳴る。ときに、風がきてマン
トがふわりとひろがった。

ぼくには、とろけそうな幸福感があった。

その草いろのマントは、意地のわるい悪魔の黒いマン
トではなく、とてつもなく幸福なところへぼくをつれ出
してくれる奇蹟のマントのように見えた。

じっさい、その軍人は長崎の親戚の染物屋からぼくを
つれ出すと、その日は汽車で長崎県の大村というところ
へつれてゆき、広い明るい家でごちそうをしてくれたメ
ガネをかけたきれいなおくと、上品なおばさんがい
て、ぼくがおなかいっぱいになったのに、何度もご飯の
おかわりをすすめた。大村には歩兵連隊があり、軍人は
そこに勤務しており、その家は将校官舎であったのだろ
う。

庭には池があつて、そのうえでサクラがふくらんでい
た。庭のむこうはいちめん青々とした畑で、いい匂いを

持った風が吹いてくる。

ほどなく、電灯がともった。ぼくはその明かるいのに、びっくりした。染物屋でほどきものをしていたときの、すぐ眠くなるようなうす暗い電灯とはまったく違って、電球で、部屋が白金色に見えた。

そのうち、やさしいおばさんが「おフロにおはいりなさい」といった。湯殿も新しく、木の香がぶんぶんにおった。おばさんは総ヒノキの湯船に手を入れ、しばらくかきまわし、「あつかったらいつてちょうだい」といい、ぼくの顔をじっと見た。それがまぶしくてたまらず、思わず目をそらした。



湯船はとても大きかった。そのなかにたったひとりっかっていることが、なんだか心配なほどであった。それまで、そんなおフロは知らなかった。東京でも長崎でも銭湯だったし、お寺に世話になっているときも五右衛門フロでお尻がひどくあつかった。

フロからあがると、おばさんがノリで固いユカタを着せてくれ、「あすは早いから、すぐおやすみね」といった。そうして導かれたフトンもきれいな色で、ふわふわで羽のように軽かった。そんな上等なフトンもはじめてであった。

興奮したのか、こどものくせになかなか寝つかれなかった。となりの部屋では、軍人とおくさんとおばさんとしきりに話しあっている。もともと、軍人の声はほとんど聞こえず、ふたりの女の声ばかりがつづく。そのうち、どうやら話はぼくのことになったらしい。

「あんなちいさい子じやいうのに、賢いねえ。おフロにはいるとき、手拭いでちゃんと前をかくしていたよ」

おばさんの声だった。と、おくさんが「へえ」と感心したようにいい

「学校もとてもできるんですね。おそろしいような子ね」

と、つづけた。

ぼくはそれを聞きとめて、どきりとした。うれしくなり、得意になり、そのうち何だかなくなってきた。

フロへはいるとき、手拭いで前をかくすのがそんなに賢いことなのか？ 学校ができるといっても、一年を二度やったからで、自分のことがずいぶん誇張して伝えられているのを知って不安になった。それがなぜ、「おそろしいよう」なのか？

おそらく、放浪にちかい生活のうちに、ぼくはずいぶんヒネこびた少年になっていたのにちがいない。と、いまでは思う。

そうして、その軍人がぼくをつれていった神戸の家は生田筋の、生田神社の裏門をすこしさがった薬局であっ

た。見あげると、くりぬきにした大きなトラの看板がかかっている。赤い口を大きくあけて、尻尾を巻きあげている。

店さきには赤いポストが立っていた。

そのトラの看板とポストさえも、きわめて幸福なもの
のしるしに思われた。母の兄の家であつた。

ぼくは、小学校にはいる前年、ばあさんにつれられてはじめて長崎へ帰ったことがある。そのとき、じいさんはひとりおくれて東京を出、あとから長崎へ追いかけてやってくる。後年、じいさんの遺稿を調べていると『西下

明治四十四年、大阪浜田日報社発行『名所図会』（敬享敬史藏書のうち）から



日記、一名疑夢游録』というのがあった。そのときの紀行を口述し、尾崎楓鎧が筆記したものである。

それによると、じいさんは大正九年二月、わざわざ信越線、北陸線回りで長崎へむかい、途中神戸に下車している。じいさん——敬亭散史が三宮駅におりたのは二月四日正午である。

駅にはたくさんの出迎えの人たちがカキをつくっている。ところが、自分を出迎えるはずの人は来ていない。腹はへるし、失望のきわみだ。しかたがないので人力車をとって下山手通一丁目の家をたずねる。

「家ヲ見ルニ、大虎ノ看板アリ。屹然トシテ屋上ニ聳ユ下ハ葯（薬）店ヲ開ク」

店にはいつて一家の歓迎を受ける。家人が、電報を受け取って早朝から昼まで交替で出迎えにいつていましたのに、お見えにならないので心配していました、という
そこで、じつは北陸線回りで来たことをいつた。

「家人、啞然トシテ曰ク、宜ナル哉」

家人はさっそく膳を運んで来る。

「第一ニ欣然トシテ挙グル者ハ、灘釀美酒ノ一盃ナリ。
灘ハ海内ノ銘酒。名ハ及バズトイヘドモ、実味ハ伊丹ニ
勝レリ。カツテ頼山陽ヲシテ涎ヲ垂ラサシム。余モ亦入
神第一ニ此ノ美酒ヲ飲ム……」

つまり、灘の酒にすっかりごきげんになったわけだが
そのころはまだ伊丹の酒のほうが有名だったらしい。

それから、さっそく生田神社に出かけ、源平の合戦をしのび、夕食には明石ダイが出て喜び、翌日から福原、湊川神社、諏訪山を見物して長崎へ出発している。

ぼくはいいさんの二年のちに、その大トラの看板の店へつれていかれたことになる。看板はいいさんさえ、「屹然トシテ屋上ニ聳ユ」と書いたほどだったから、少年のぼくにはとてもなく巨大に見えた。それとともに、大きな誇りのような感情がこみあげてきた。

その店には伯父夫婦、五つ年したの男の子、七つ年した女の子、伯父の母と姉がいた。ぼくには従弟妹、外



江戸の風景（寛政十三年）

祖母、伯母にあたる。

一家は敬亭敬史の『西下日記』にあらわれているような、善意の人たちであった。ことに、伯母は自分の子たちと差別しないように特別に心を使っていたし、いとこたちはよくを「にいさん」と呼びならわすようになったが、よく自身はすぐに草いろのマントが象徴した幸福感から醒め、善意さえも素直に受け取らない少年になっていた。

草いろのマントを着たその軍人が、「ジュンソさん」という名であることを、やがて伯父や伯母の話から知った。母のイトコにあたることもわかった。「ジュンソ」が準三の漢字をあて、その姓が「能勢」であるのを知ったのは、中学にはいってからである。

数年前、「朝日ジャーナル」を何気なくひらいていると、終戦特集記事のひとつに軍人一家のその後が報道されていた。読み進むうちに、それがジュンソさん一家のことだと気づいて声をあげそうになった。それによると敗戦のときに、能勢準三は陸軍少将であり、三人の男の子もすべて幼年学校から陸軍士官学校を卒業した将校であった。それだけに、敗戦の打撃は一家にきびしく、それを苦悶のすえに切り抜けたという記事であった。

準三元少将は旧部下の世話で、東京の倉庫会社の監守として働くようになり、老齢ながら毎日出勤しているということだった。三人の男の子は、それぞれ会社員になりきっている、とあった。

元少将はグラビアページの写真になっていた。暗い倉庫のなかを、くたびれたセビロのポケットに両手をつっこんだまま巡視しているようなポーズであった。

あたまはきれいにはげ、顔には深いシワがあった。微笑しているが、奇妙に暗い影はなかった。もちろん、あの幸福の使者の草いろのマントはどこにもなかったが、ぼくはさっそくにも手紙を書くと思った。ところが

突然急な仕事がおこって巻きこまれ、『朝日ジャーナル』はどこかへ消え、手紙を出す機会をうしなった。ぼくはいまも、それを深く悔いている。（つづく）

☆関西の情報総合雑誌

オール関西 11月号 一九〇円

☆書店にて発売中

特集／大阪湾ポート・オーストリティ論

原口忠次郎神戸市長にきく

対談／戦中派と戦無派はつながらない

黒岩重吾／赤尾兜子

好風対話／命をかけて生命をまもる

高田好胤／本田良寛

ルポルタージュ／現代人間学Ⅱ遊び空間プロデューサー

好評連載小説／花紋紋 新橋遊吉

名作の中の関西／佐藤春夫「昌子曼陀羅」大谷昇一

三洋新人文賞（第11回）発表／立体造形部門福岡道雄

発行所／大阪市北区曽根崎上一丁目三〇八千代会館

オール関西編集部（三一一）二六三五



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL ☎ 7290

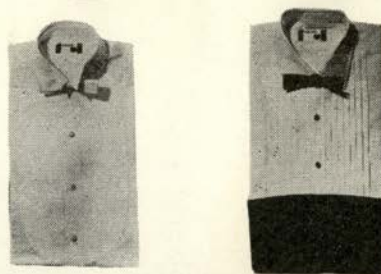


シャレたセンスの
舶来品が
揃っています



元町2丁目
☎ 4707~8

KOBE SHIRT



ようざ物襟衣縫上處

神戸シャツ

神戸店-神戸大丸前 33-2 1 6 8
東京店-東急日本橋店1階 211-0511 内線219
東急渋谷本店6階 462-3433



高級紳士服専門店

神戸テーラー

さんちかメンズタウン TEL ☎ 0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL ☎ 2817-3173

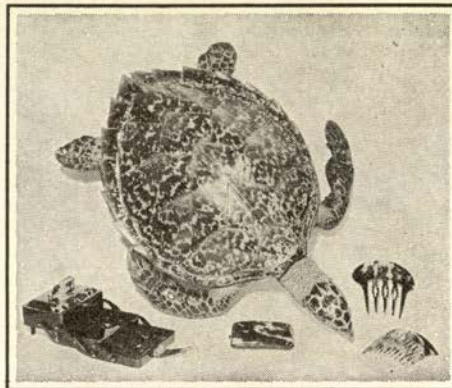


Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

オシャレ洋品の店

フナキヤ

元町3 TEL<33>3617

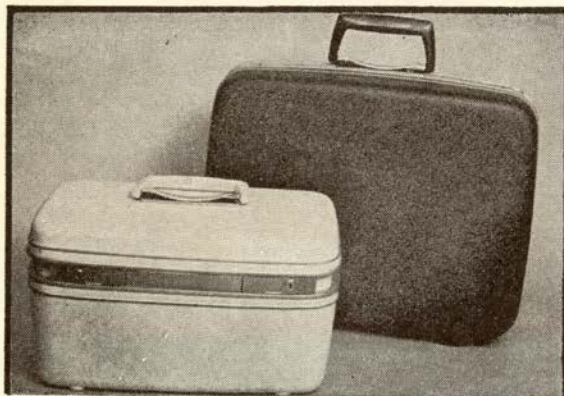


センスあふれる

太田 鱉甲店

べっ甲専門店

元町1丁目 TEL③36195



大 上 靴 店

元町通1丁目 TEL 33・3962
さんちかメンズタウン TEL 39・4627



創作ハンドバッグ
工芸品 ORIGINAL

神戸 ■ 元町

ACCESSORIES

イクシマヤ

TEL. (33) 2415・2416

額製積末

三宮・大丸北
トア・ロード
③③1309・6234

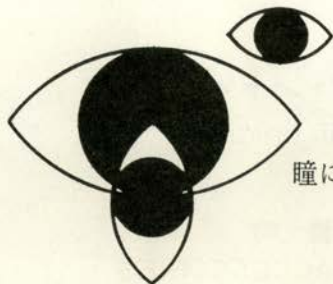


三宮方面でのお買物は………
 さんちか店 ファミリータウン
 三宮店 センター街大洋劇場東隣
 元町方面でのお買物は………
 元町店 元町通3丁目山側
 パンプウ店 元町通1丁目二家前

おもちゃの
カ
メ
ヤ

39	33	33	39
0	0	4	4
7	0	9	0
6	9	6	4
8	0	9	5

カメヤのおもちやで
宇宙探検



日本コンタクトレンズ協会会員

国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葦合区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570



羽アリを見たら
危険信号



自アリ

一回全減 十年間責任保証
兵庫県環境衛生事業協会理事
日本白アリ対策協会認定防除施工士
神戸商工会議所会員

アイワ消毒株式会社

神戸市生田区中山手通 3 ~ 5 2

トアロード筋

TEL (39) 8636 (33) 0854

おすし
てんぷら

栄
彌



営業時間

A.M. 11.30 ~ P.M. 9

本店 大丸前・三宮 神社東
TEL ③③ 5 5 7 7
支店 さんちか味のれん街
TEL ③⑨ 5 2 3 3
(毎週月曜日休み)

創業明治二十八年

履物の山下

古い老舗に新しいセンス

神戸 三宮センター街

TEL ③⑨ 0256

確実正札 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸っ子のみんなに愛される落ちついた喫茶店



ai

TEA ROOM

喫茶 愛

★神戸・元町本通元一ビル2階 TEL (32) 0958

STAND

VIVA KITANO



神戸市生田区北野町3 (いろりや上) TEL 22-2926



グラムール

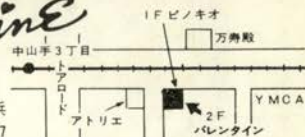
生田筋・岸ビル地階 TEL 33-4637



スナック& プレイラウンジ バレンタイン

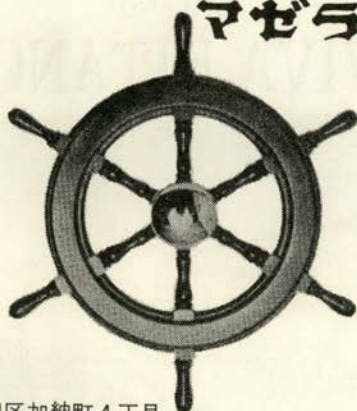
Valentine

KOBE・中山手2丁目電停浜
YMCA西 TEL 32-2967



SNACK BAR

マゼラン



生田区加納町4丁目

TEL 39-2366



night cap

むらかみ

TEL 39-2616

神戸市生田区加納町4 (阪急三宮山側但馬銀行北小路入る)

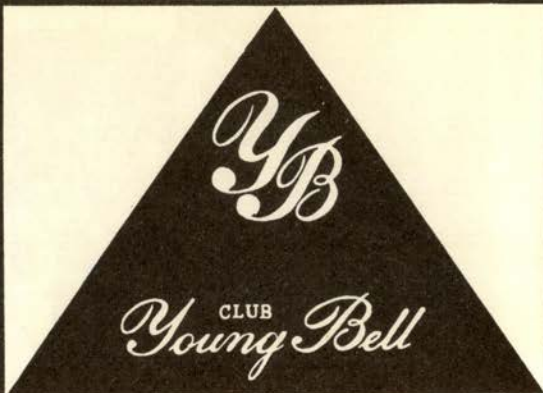


洋酒の店キャンテイ

Chianti*

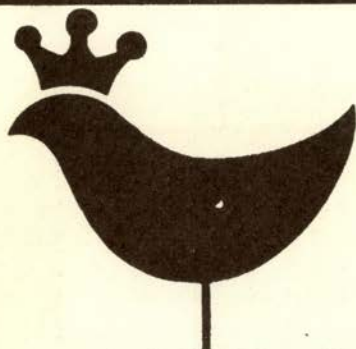
榊 晴夫 TEL(39)3060

213KITANAGASA-DORI IKUTA-KU KOBE



松田 真理子

生田・中山手2丁目89・光ビル1階 TEL 33-3052



CLUB 小万

生田新道相互タクシー上る

PHONE : 39—0638
39—4386



SNACK
YAMANOTE

神戸市生田区中山手1丁目

ソネビル TEL 22-3637

